

## 習志野第九と私

十七回生 友野 信善

はじめに：

題名を「習志野第九と私」としました。座標軸を思い描いてください。

横の軸は私の住まいの移動。つまり最初は千里山で、中間が久留米、最後が習志野です。

縦の軸は習志野の歴史で、上端が2007/12/23の第30回習志野第九演奏会、下端が1915〜20にあったドイツ兵士の俘虜収容所。この間に千里山会が大きく存在し、私の人生の上に容易ならざる神の御手があったのだと感じます。

今日皆さまにお配りした本「Power for Living」の見開きに「神様のことは生きていて、力にあふれています。」とありますが、この本が実はこれからお話する証しへの下敷きでもあります。私の横軸の始まりが千里山であったことは何と恵まれていたことでしょうか。

柿崎さんの力作、千里山会誌10号の「河邊貞吉師を語る」を読むにつけ、千里山が日本でもっともキリスト教の土壌が深かったゆえにこそ、20年前単身赴任の折に、西ドイツ・デュッセルドルフで神様の愛に触れることができたのだと思います。

千里山：

私共一家は昭和14年10月に、最後の便船「伏見丸」でイギリスより帰国致しました。母は限られた重量制限の貨物にピアノをいれたため、他の家財は殆ど持ち帰れなかったのですが、私と妹（千里山生まれ）が音楽と関わりを持っていたのは母の英断のお蔭でした。グレース幼稚園・千里第二小学校は、多くの皆さまが縷々語っておられるように本当に素晴らしい環境でした。

久留米・北川内：

昭和18年9月、母の里である福岡県久留米市に転居。師団のある軍隊の町であり、国民学校（小学校）まで4キロあった。4年生から、2組に分かれ1週間交代で毎日町内会全部の新聞を、拠点であった学校まで受取りに行き持ち帰り、隣組ごとに配るため、4キ

ロを一日2往復。しかも冬の霜道をはだしで。体は強くなりました。昭和20年5月、空襲警報が頻発し、陸軍兵舎のすぐ近くある母の里も危険を感じる地域であり、父の里である八女郡北川内村に疎開。ここでは、食料事情が一転したことはもう驚くべきことでした。当時は農民層がもっとも恵まれた階層でした。足踏み式のシンガミシンが母を支え豊かな食料の糧となる祖父が健在でした。

昭和21年4月、久留米の旧制中学明善校の最後の学年として入学、6年間を過ごします。ここに男声合唱団があり、2年先輩に中村八太さんがおられ、プリマドンナ東敦子のご主人となる二田原英二さんがおられた。本当に良き先生、先輩、友人に恵まれました。

大学を卒業し、就職したのが久留米の日華ゴム現月星化成。私は13年勤めた揚句に飛び出す羽目になりましたが、それは労音合唱団に入り、当時の指導者、

中学の音楽の先生が去ったために後を引き受け、8年間働いたのですが、毎週木曜日6時になるといなくなる私が、職場でにらまれるのは至極当然の話。その頃の私の合唱のバイブルは音楽の友社刊の「合唱講座」(青木八郎他編 3巻)でした。

習志野：

それから5年余り、代議士の秘書グループに入ったわけですが、板子一枚、下は地獄の有様。父の助力で就職できたドイツ関係の機械商社ウエスターントレーディングで19年定年まで働きました。この間1985年から2年間、ドイツ・デュッセルドルフ駐在員を命ぜられたことは大きな出来事でした。思いもかけなかったことで、部下の方がはるかにドイツ語はうまい。仕事は英語でこなせたものの、マネージャーとしての立場にこと欠くことは多かった。実は私がクリスチャンになったそもその因縁ですが間違っていないかもしれません。そこに素晴らしい救いとやすらぎがありました。これでよいのだという自覚、友情ときずな、信仰が与えられました。ドイツ語の方は一向にうまくならぬまま今日に至っているものの、ドイツ関係の友人はずいぶん増えました。

習志野第九合唱団と津田沼混声合唱団：

習志野第九の歴史に触れます。JR津田沼駅南口前に習志野文化ホールが設立されたのは1978年12月で



す。このホールは、人口15万の千葉県でも中小都市としては、破格の資金が投入され、日本でも指折りと考えられた程のホールです。当時の習志野市長吉野孝、千葉県唯一のプロオーケストラ、ニューフィル千葉の創立者であり、ウィーンから帰朝したばかりの新進気鋭の指揮者伴有雄、NHK千葉支局長小松甲子夫等の肝いりで建てられたホール。オープニングにベートーヴェンの第九交響曲を演奏しました。1年近く前から合唱団が設立され練習を開始しました。この第一回の折の合唱指導者が例の合唱講座の編者、青木八郎でした。

話は少しもどりますが、77年秋に私が紛れ混んだ小さな合唱団にマエストロ青木八郎がいた。立派なピアノ伴奏者、練習会場もよい、いないのは合唱団員だけという有様。これを増やせば立派な合唱団になると思いましたが。当時私も若かったし、先生も若かった。年が明け、しばらくすると第九合唱団が結成され、合唱指導者として青木八郎が就任。毎週日曜日の第九の練習のあとは、練習会場近くの合唱団团长長藤崎氏宅にて先生を囲みビールを飲む。先生は私にいつとあいつを引つ張つて来いとたまう。そして私が声をかけると大抵きてくれるのです。秋の合唱祭の頃には結構様に

なる合唱団になっていました。この合唱団が実は習志野第九を支える中核なのです。

そうこうする内に習志野第九第一回演奏会。チケットは発売と同時に売り切れ、さらにもう1回追加の演奏会がもたれ、これもほぼ満席と大成功裡にことを終えた。私は藤崎团长宅でビールを飲みあつた第九の男性メンバーを津田沼混声合唱団にかどわかすという役割、まさに漁夫の利をせしめた罪人、人買い友野でした。その翌々年に津田沼混声合唱団第一回演奏会が開催。

ときを経て去る10月8日(月・祝)第28回演奏会を無事に終えました。幾人かの千里山会の皆さまにもお越し頂き、本当に有難うございました。満席で、1500枚印刷したプログラムがなくなり、あわててコピーをして間に合わせたほどのご来場を頂きました。出し物は平井康三郎作曲の日本歌曲集、中島はる作曲、長崎小景(賛助出演)、最後にモーツアルトのレクイエム。1年間の練習の総決算として良い出来でした。これが終わるといよいよ本番12月23日第30回習志野第九演奏会となります。今回第九合唱団の結団式は9月9日、集まった団員は限度とされる300名をオーバーし、321

名。第30回演奏会を期にNPO法人習志野第九合唱団を組織し、単年募集・解散型を脱し演奏会全体を年間行事化する受け皿になりました。

千葉県日独協会:

第一次大戦の折、ドイツ軍俘虜5400名が、徳島県鳴門、福岡県久留米、千葉県習志野など。

最初は13箇所、最後は9箇所の収容所に集約された。鳴門市坂東収容所は東映映画「バルトの楽園」で大きく報道されました。習志野収容所もやはり大きな収容所で1000人近い兵士が収容され、西郷隆盛の長男西郷寅太郎中佐が所長であった。大正7年全世界に猛威をふるい日本でも十数万人が亡くなったスペイン風邪で、習志野収容所では25柱の罹病死者を出し、あまつさえ西郷所長もこれで亡くなった。お墓は収容所の在った習志野市東習志野から市境を越えて、船橋市習志野二丁目の霊園にあり、ドイツ兵士が帰国後歳月を経て、墓標の十字架も朽ち果てた。第二次大戦後昭和30年11月このお墓は整備され、ドイツ国民哀悼の日(海外に残るドイツ墓地を顕彰する記念日)に新しく黒御影石の慰霊碑が建立され、ドイツ大使クル博士主催

の除幕式が行われた。

これを機に毎年11月ここで慰霊祭を行う日本側の母体として千葉県日独協会が組織された。毎年11月ドイツ大使館武官がここに来訪、頭花が行われ、ここに祀られる30柱の兵士の一人一人の名前を呼び上げ、慰霊式が行われる。これが千葉県日独協会事務始めですが、県全体にわたるドイツとの交流に関係する会員は年々増え続け、主催行事、後援行事共に活発に行われている。習志野第九演奏会は、第15回演奏会以来ドイツ大使館の後援を頂いており、2005年「日本におけるドイツ年」行事以来千葉県日独協会の後援をも頂いています。

エルスハイム男声合唱団との交流:

収容所の兵士の一人に、日本のワイン醸造の父、ハインリッヒ・ハムがいました。日本政府から招聘され、山梨県登美村で日本初のワイン醸造に成功した。第一次大戦勃発で志願し、青島のドイツ海軍に加わる。2ヶ月の激戦の後、俘虜として習志野に来る。彼は帰国後エルスハイム男声合唱団に加わり、晩年はこの合唱団の団長に就任。習志野で製作したギターの実物がエ



ルスハイムにある。エルスハイムよりハインリッヒ・ハム生誕120年の記念に習志野第九合唱団と合同演奏会をしないかとの誘いがきました。我々はそれに乗りました。日本より総勢38名が参加。第25回演奏会の直後から準備に着手。3月に結団式、14回の練習を重ね、2003年8月27日、先方のステージ、我々のステージ、先方男声との合同ステージ、第九交響曲第四楽章というプログラムで合同演奏会にのぞみました。相手は150年も続く由緒ある男声合唱団。州の夏季公式行事に格上げされたこの演奏会はマスコミも大きく取り上げました。ブレークしたのです。聴衆総立ちの拍手喝采。フランクフルトの岡田総領事はじめ多くの日本関係者、俘虜兵士の子孫、歴史研究者、招待側VTPなど多数の皆様のご期待を頂く。歌の喜びに国境はありません。「ドイツで、ドイツ人とドイツの歌を共に歌う」という夢が実現したのです。

プリマドンナ東敦子との出会い：

世界に誇る日本のプリマドンナ東敦子さんをソリストとして4度習志野にお迎えするというすばらしい光栄を習志野第九演奏会は持っています。

年先輩に二田原英二様が居られたのです。男声合唱団の良き先輩でした。

只今は千葉県習志野市に既に40年近く住みますが、当地JR津田沼駅前に優れた音楽堂である習志野文化ホールが1978年に開設されこけら落としにベートーヴェン第九交響曲が演奏されました。以来毎年年末に第九を歌うことになり、今年で30回目の演奏会となりました。ここに第2回、3回、4回、そして15回演奏会のソリストに東敦子様をお迎えするという幸せに恵まれました。第2回演奏会の折、そこに天下のプリマドンナ東敦子のご夫君として、二田原先輩が現れました。には本当にびっくり仰天。以来東様のドライバー役としていつも来て頂きました。私は平然とこのお役に徹した二田原先輩が大好きなのです。

今年千里山会の講演を私がやるよう仰せつかりました。私はキリストの恵みの濃い千里山から、今住まう習志野（私の母も既にこの地に13年住まい98歳）までの地縁につき、さらに歴史を紐解くと大正4年から9年にかけて第一次大戦時のドイツ俘虜収容所があり、今歌うシラーの頌詩「歓喜に寄す」にあるように「時の流れが厳しく切り離したものを、再び結び合わせ、

ご母様東寿子様のご存命です。私はお母様を11月10日の千里山会にお招きできぬかと奥田事務局長と相談しました。そこでお母様に私が出状させて頂いた手紙をここに披露します。残念ながらお母様のご来訪は頂けなかったのですが、若々しい張りのあるお声で応対いただき後日丁寧なお礼を頂きました。さすが誇るべき日本のプリマドンナの御母上と感じ入りました。

東 寿子様

平成19年11月1日

拝啓

突然お便り申し上げる失礼を何卒お許し下さい。友野信善と申します。

実は私、東敦子様とはグレース幼稚園、千里第二小学校の3年年上で、千里山には、父母と共に昭和14年から18年にかけて住まいました。柿崎様、口羽様、河邊様、三笠様と同じ通りでした。千里山から引越した先が久留米（母の里）さらに八女郡北川内村（父の里）であり、進学先が久留米の中学明善校でした。2

すべての人々は皆兄弟となることが神様の思召しとする第九の歌を、今年も歌う。東敦子様もきっと我々の歌声を良しとして頂くであろう、で結びたいと思います。

昨日私は二田原先輩のお世話で、玉川大学資料室より東敦子関係パネル、写真をお借りし、只今展示資料としてまとめ上げ、10日先に迫った千里山会の講演に備えました。神様の恵みで参会者の心に届く講演になることを願います。

先ずはご挨拶とさせて頂きます。

敬具

あらためて日本の誇るプリマドンナ東敦子様の世界の檜舞台での輝かしい活躍、神に捧げられた尊い生涯を想い、1989年（平成11年）63歳の若さで天に召された東敦子様のご冥福をここに心からお祈り申し上げます。

以上